

回想

安田修一

プロローグ

休日のひとつ、机に向かってペンをとる。昭和三十三年から八年間、東京慈恵会医科大学の第一内科で、上田英雄、高橋忠雄両教授の指導の下に、診療と研究に従事していた日のことが脳裡に浮かぶ。朝八時からの教授回診や夜の動物実験。中央検査室はなく、研究室の片隅にチセリウスの電気泳動装置があつて、仲間たちと血清蛋白分画の測定を分担していた。それから五十年が過ぎた。

昨年と同様、自然の風景、医学の歴史、診療メモ、かつて読んだ本、映画のストーリーなどで、今一度、断片的な文章を書いてみたいと思つ。

肝臓の古い話

ギリシャ神話によれば、ギリシャの北方、テッサリアにあるオリュンポスの山頂に、ゼウス（語源は「天空」を意味す

る）を王とする神々の館があつたといふ。ゼウスは、父であるクロノスを追放して絶大な権力を握つていた。父は、ティタン族の首長だつたので、ティタンは反乱をおこしたが、やがて鎮圧される。

ティタンのイーアペストには、四人の息子があつたが、メノイテイオスとアトラス（アフリカ北西のアトラス山脈の語源、それより西の海がアトランティック・オーシャン、大西洋）は、反乱に加つたといふことでゼウスから罰をうける。プロメテウス（先に考える者）は、ゼウスが優勢であることを知つてゼウスに味方したので、オリュンポスの神の仲間に加わることを許される。エピメテウス（後で考える者）は、兄の勧めに従つたので追放を免れた。

ある日、館で会があり、プロメテウスは食事の分配係を務めた。一方には、脂肪に富んだ肉と内臓を牛の胃袋につめておき、他方に、肉のついていない白い骨をつややかな脂肉でくるんで並べた。ゼウスは、先に選ぶようにすすめられ、うまさつに見えるが食べることの出来ない骨の方をとる。王は怒り、肉と内臓を得た人間たちが料理するための火を隠してしまつ。人類を創造したプロメテウスは、アテナ（知恵の女神）の手引きでオリュンポスに忍びこみ、火のついたままの炭を大茴香（じょうじょう）の茎の中に隠して地上に持ち帰つた。

人間に文明の第一歩を踏みださせたプロメテウスを罰する

ために、ゼウスは妙案を思いついた。美女をつくり、パンドラと名づけて、エピメテウスの所に贈ったのである。「これはゼウスの陰謀だ。送り返した方がいい」とプロメテウスは弟に忠告したが、エピメテウスはパンドラの美しさに魅せられ



『ギリシャ神話』(岩波新書) 高津春繁著から

とあらゆる災わざいや疾病が飛び出したのである。しかし、彼女が急いで蓋をしたので、ただ一つ「希望」だけが残った。プロメテウスは、ゼウスの王位を危うくする秘密を知っていた。ゼウスは、それを明らかにするよう迫ったが、彼は、その命令に従わなかった。

妻にしてしまつ。

彼女は、神々からの贈物の壺を持参していた。好奇心からこの壺を開けた途端に、それまで地上に存在しなかった、あり

ゼウスは激しく怒り、プロメテウスを世界の果て、コーカサスの岩山に鎖で縛りつけ、大鷲を送ってプロメテウスの肝臓を食い荒らさせる(図)。昼間食べられた肝臓は夜の間に再生するので、毎日、食べにやってくる。プロメテウスの苦しみは、やむことがなかった。しかし、ついに時が至り、英雄ヘラクレスが大鷲を射落とし、プロメテウスを救つのである。

紀元前二〇〇〇年頃、チグリス河とユーフラテス河にはさまれたメソポタミアは、世界文明の中心として栄えていたが、そこに住むバビロニア人とアッシリア人は、肝臓に生命が宿ると考えていた。又、紀元前五世紀、古代ギリシャのプラトンは、肝臓が知的精神、思考力を映し出す鏡であるとのべている。

古い時代の物語が、芸術家によって、再現されることがある。例えば、ベートーヴェンの作品に「プロメテウスの創造物」というバレエのための音楽があり、その中の序曲は、今日、演奏会の曲目となっている。又、ルーベンスの絵画に「鎖に繋がれたプロメテウス」がある。

心臓と音

「悪魔が夜来る」という映画があった。15世紀、中世のフランス。「悪魔は人間たちを絶望させようと、二人の者を地上に遣わした」という字幕と共にこの映画は始まる。

男爵の城で、娘アンヌと騎士ルノーの婚約の宴が開かれて
いるとき、吟遊詩人に化けた悪魔の使者、ジルと男装したド
ミニクが訪れる。彼等は、悪魔の命令によって、城を不幸に
落とし入れるためにやって来たのだが、ジルとアンヌは一目
で恋に落ちてしまふ……。庭園に小鳥がさ
えずり、清らかな泉のほとり。思ひ出の場所
で、アンヌとジルはたまたまずんでいる。美しい
音楽の流れ。悪魔が現われ、意に従わない二
人を石にしてしまふ。

「何だろつ？ 何の音だ？ 心臓の音だ、
打ってる、心臓が打ってる、打ってる、打
てる」「止まれ、止まれ、止まれ……」と叫
びながら、石像を打ち続けるところでラスト
シーンは終わる。

マルセル・カルネ監督によるこのフランス
映画は、一九四二年、第二次大戦中に発表さ
れた作品で、悪魔によって石像にされてしま
ったジルとアンヌの恋人たちが刻む心臓の鼓
動に、ドイツの占領下にあつても失われるこ
とのないフランス人の自由への願望を象徴させているという。
古代ギリシャの時代、紀元前四世紀に生まれたアリストテ
レスは、心臓を知性の座と考えていた。脳は、単に心臓を冷



やすためのものであり、この冷却の過程は粘液 (Pituita) の
分泌によって効果をあらわすとされた。この粘液は、下垂体
の名称となつている。更に遠い昔、中国の皇帝、黄帝 (紀元
前二六九八〜二五九八) は、「内経」という医学書の中で、「人

体内の全血液は、心臓の支配下にあ
り、心臓によって調節されている。

血液は絶えず循環して流れており、
止まることがない」と記述している。

又、「心臓は王であり、肺はその大
臣たちである。また、肝臓がその将
軍で、胆嚢がその裁判官である。そ
して、脾臓が五感を支配し、三つの
熱腔、すなわち胸腔、腹腔、および
骨盤が老廃物を始末する」と生理学
を面白く説明している。

長い年月を経て、一六二八年、英
国のウィリアム・ハーウエイは「太
陽が宇宙の心臓であるように、心臓
は生命の源泉であり、『小宇宙』の太
陽である」とのべ、血液循環の原理を発表する。一八五七年
に、ドイツの生理学者 ヨハネス・ミュラーとルドルフ・ア
ルベルト・ケリカーによって、心臓の拍動で電気がおこるこ

とが証明され、一九〇三年、オランダのアイントーヴェンにより、人体における心電図の記録が成功したのである。

直径五ミリの小さな結節が、心臓のリズムを作り出している。長年の間、心臓の音をはっきり聞きとりたいと望んでいた人がいた。その人の名は、ルネ・テオフィル・イアシント・ラエンネック（一七八一〜一八二六）。彼は、ある日、ルーヴル宮殿の中庭を歩いていたとき、一人の少年が板の一方の端に耳を押しつけ、もう一人の少年が他の端を釘で叩いて送ってくる信号に聞き入っている姿を見た。

彼は、大急ぎで病院に帰り、一帖の紙を円筒状に巻き、一端を患者の胸に当て、他端に耳を押し当てた。すると、心臓の音が非常にはっきり聞こえた。更に、紙筒を曲がった木製の筒にとりかえたところ、もっとよく聞こえるようになった。彼は、この木の筒を聴診器（ステトスコープ）と名づけたのである。

映画「悪魔が夜来る」の中に、美しい音楽があつた。ギリシャ神話に登場するアポロンは、医学の神であり、音楽と詩歌を司る神である。医師で詩人のスコットランド人、ジョン・アームストロングは、このことについて次のようにのべている。

「音楽は、全ての喜びを高め、全ての悲しみを静め、諸病を追い払い、あらゆる苦しみをやわらせてくれる。そして、そ

れ故に、古いにしへの賢者たちは、医学と音楽と詩歌との不可分の力を崇拜したのだ」

祖国を限りなく愛したピアノの詩人、楽聖ショパンの心臓は、ポーランド・ワルシャワの教会に納められている。彼の音楽は、永遠に人々の心に安らぎを与えてくれることだろう。

脾臓

永井隆という人がいた。彼の著書「この子を残して」の中に、次のような記述がある。

「脾臓のさばって胃腸や心臓をおしつけているので、食物は多くは入らず、腸の通りは悪く、息切れはする、妊娠十カ月の婦人が肩で息をついているのと同じだ。妊娠の方はやがて赤ちゃんが生まれためたしめでたしだが、私の脾臓は出てゆかない……」「腹のまわりが、へその高さで九センチ。これ以上は皮が伸びないところまで膨れている。これは脾臓が途方もなく大きくなっているからである……。私の腹の左半分全部を占領してまだ余り、へそを越して右の方へかなりのさばり出ている」。

彼は、長崎医大の物理療法科の医師であり、原子爆弾で被爆し、慢性骨髄性白血病でその生涯を閉じた。

古代ギリシャの昔、紀元前四六〇年頃に生まれた医学の父・ヒポクラテスは、人間の体内には四種類の体液があり、

心臓の血液、脳の粘液、肝臓の胆汁、脾臓の黒胆汁が調和しているときは健康であると考えていた。

ヒポクラテスの晩年に活動したプラトンは「肝臓の隣にある脾臓は、肝臓を常に明るく、ぴかぴかに磨いておくためのもので、それは鏡のそばのふきんのようなものであって、汚れがたまると大きくなり、体が浄化されると小さくしぼむ」と述べている。

又、紀元二世紀のローマ時代、ガレノスは「栄養に不適当な成分は、脾臓から管で胃の中に放出される」と語っている。

この臓器の構造と機能が解明されるためには、その後の長い年月が必要だったのである。

白血病は、フランス人、ベルボーによって、初めて症例が記録された。一八二七年のことである。そして、ドイツのウィルヒョウによって、一八四七年に白血病という名称がつけられたのである。

長期間にわたるX線の被曝、原子爆弾や原発事故による多量の原子放射能は、白血病の病因となる。慢性骨髄性白血病は、腫瘍細胞の脾臓への浸潤によって著しい脾腫をひきおこす。

脾臓は、かつて、黒い胆汁を宿す憂鬱あふりつの座とされ、体内の黒胆汁が多くなると憂鬱症(メラン)、黒い、コリー、胆汁(胆)になると考えられていた。

ホルモン

「冬来たりなば、春遠からじ」と英国の詩人シェリーは書いた。寒い冬がやってくると、草や木は遠からず新しい季節が訪れることを知っている。路傍みちのほとりに並ぶプラタナスの小枝であまたの蕾つぼみがあたかも小さな焔ほのおの如く、紅い光を放出する。植物には、種々のホルモンが存在することが明らかになった。花芽を作り出す花成ホルモン、フロリゲン、冬の間、花芽の成長を抑えるアブシジン酸というホルモン、このホルモンが徐々に減少して、春になるとジベレリンが登場し、莖や花の生長を促進する。

花が開いたり、閉じたりするのは、オーキシンの作用による。又、植物の枝分かれを抑える植物ホルモン「ストリゴラクトン」が発見された。植物ホルモンは、果実の発育と密接な関係があり、トマトでは、初期にオーキシシンが増加し、次いでジベレリン、最後に果実が着色し、成熟するときはアブシジン酸が増加するという。又、ジベレリン処理によって、種無し果実が作られている。

春になって日が伸びると、ウズラのオスで甲状腺刺激ホルモン(TSH)の分泌が増加するという記事があった。

人体に約二〇ミリグラム存在する元素がある。大気中、土、海水、植物、動物に存在しているが特に海藻に多い。蒸気が紫色を呈する。人間が生命を維持するために不可欠。消毒作

用がある。その不足を補うために食塩に添加している国がある。あるホルモンの成分。それは、原子番号53のヨウ素(I)である。ヨウ素のIodineは、紫色を意味するギリシャ語に由来するという。この元素は、大部分が甲状腺ホルモンの成分となっている。

生体の代謝を促進する甲状腺ホルモンには、サイロキシニン(T₄)とトリヨードサイロニン(T₃)があり、甲状腺からは主としてT₄が分泌される。作用はT₃の方がT₄の約五倍強力であるといわれる。甲状腺ホルモンは、下垂体前葉の甲状腺刺激ホルモン(TSH)、更に上位の視床下部の甲状腺刺激ホルモン放出ホルモン(TRH)などによって調節されている。

ホルモンという名称は、一九〇五年に英国の生理学者、スターリングによって初めて使用された。ホルモンは、生物の機能を目覚めさせ、興奮させるといった意味のギリシャ語に由来しているという。

甲状腺ホルモンは、冬になると分泌が亢進する。オタマシヤクシが蛙に変態するのは、このホルモンの作用によるといわれる。

胆石症

「閑かさや岩にしみ入る蝉の声」

これは、凝灰岩と呼ばれる多孔質の岩の中に、蝉の声がしみこむさまを詠んだ松尾芭蕉の有名な句である。岩があり、蝉が鳴く自然の風景には、素朴な風情がある。

山の岩にも、さまざまの色や形や趣がある。渓谷の中の大きな岩が、年月を経て風化し、打ち砕かれ、押し流されれば、やがて、石となり、砂となり、土となるであろう。又、岩石や土砂によって、溪流が塞ぎ止められることもあるだろう。

水の中にあまたの物質が、いつの日か沈殿し、固化して、新しい石を作り出すこともある。

胆汁の流れは、川の流れにも似ている。胆石は、一五%の人がもっているともいわれる。胆嚢結石が多く、無症状のことが少なくない。ある調査によれば、胆石症105062例中、総胆管結石症は19465例で、一八・五%を占めていたという。総胆管結石症は、緊急の対応を必要とする。胆石症の診断に、腹部超音波検査が行われる。胆石が描出されないことがあるので、疑わしい場合は、再検、精検が必要である。

蝉は超音波を出していると言われる。

「体質が耐えられる以上に過大な栄養をとれば、病気を招く」とヒボクラテスは述べている。

高血圧

単調な川の流れの中にも、よく見れば日々刻々変化して止まない色がある。まばゆい光や美しい空色の影をつつす静かな流れが、一陣の風と共に消え去り、降りつづく雨で水かさを増せば、すさまじい力で周囲を圧倒することである。

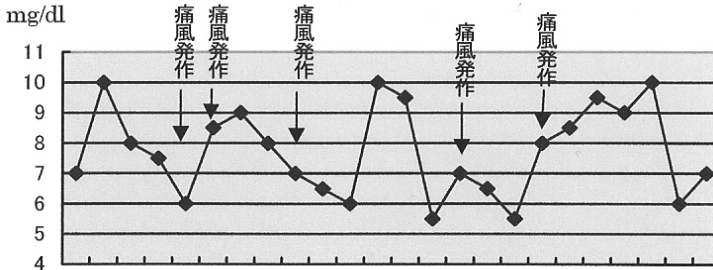
私たちの体内をめぐる血液の流れは、心の状態や食事や運動などのいろいろな要素によつて常に変化している。

肥満	飲酒	喫煙	血圧上昇 (%)
-	-	-	5.4
+	-	-	17.6
-	+	-	8.7
-	-	+	8.5
+	+	+	25.0

ある職場の健康診断で、血圧の上昇と肥満・飲酒・喫煙との関係を比較し、上表のような結果を得た。これらの三つの要素は、それぞれ独立して血圧上昇に關与しているが、複数の危険因子を有する場合は、危険因子が相乗的に作用することを示している。

「病生じては、心のうれひ、身の苦しき甚だし。其上、医をまねぎ、薬をのみ、灸をし、針をさし、酒をたち、食をへらし、さまざまに心をなやまし、身をせめて病を治せんとせんよりは、初めに内欲をこらえ、外邪をふせげば、病おこらず。後に薬と針・灸を用い酒食をこらへつつしむは、その

尿酸値と痛風発作の関係 (56 歳男性)



苦しみ甚しけれど、益少なし。万の事、始によくつしめば、後に悔なし。養生の道、ことさらかくのごとし」と益軒は養生訓の中でのべている。

痛風

「足の親指、まれに踵や足首、足背部の激しい疼痛で目がさめる。咬まれる様な痛みであり圧迫する様な、しめつける様な痛みである……」英国の医師、トーマス・シテナムは、三十歳の時に痛風となり、この疾病の症状についてはじめてくわしく記載した。二百年余り前のことである。王侯貴族の病として知られ、ローマ皇帝やミケランジェロ、コロンブス、ゲーテなど、歴史的に有名な人物がこの病氣をもっていたという。

痛風は、尿酸血症によつておこる関節炎の発作で、激しい疼痛と腫脹と発赤が、ある日突

表2 飲酒量と尿酸値の増加の頻度

飲酒量	尿酸値の増加(%)
飲酒なし	9.3
1 合	14.7
2 合	25.1
3 合	33.4

表3 肥満と尿酸値の増加の頻度

	尿酸値の増加(%)
肥満なし	6.9
肥満あり	22.9

表4 飲酒、肥満と尿酸値増加の頻度

飲酒	肥満	尿酸値の増加(%)
1 合	+	26.9
2 合	+	38.0
3 合	+	48.5
全 職 員		17.7

然出現する。高尿酸血症は、尿酸が過剰に生産されたり、腎臓からの排泄が低下したり、あるいは、両者の混合によって招来される。一般に、七・〇ミリグラム/デシリットル以上を高尿酸血症としているが、尿酸値が高くても発作をおこさないことがある。また、尿酸値が比較的低くても発作をおこすことがある。高尿酸血症は、飲酒や肥満と密接な関連がある。

(54頁の図と表2、および表3、4を参照)ある職場の健康診断から)

回想

ある記憶は、時を経ずして容易に忘却の彼方に消え失せる。苦しかったことが、あとになって懐かしい思い出に変わることもある。しかし、年月の経過にも拘わらず、決して忘れ去ることが出来ず、思い出したくない日々がある。あの忌まわしい戦争の三年八月と一週間、それは、何と長く感じられたことである。

ストーブに入れた石炭の煙が、薄暗い教室の中に立ち込めていた。信州の昭和十六年十二月八日。授業の休み時間に、誰かが戦争だと叫んだ。小学校五年生のときである。

それからの新聞の記事は、大本営発表、戦艦、空母、巡洋艦何隻撃沈、敵機何機撃墜などの戦果の連続であった。しかし、そのうちに「ガー、東部軍管区情報」とラジオが鳴り響いて、敵機の来襲を知らせるようになる。敵機は「こんな型だ」というタイトルで、ボーイングB 29とか、グラマンとか、コンソリーデーテッドなどの写真が掲載されたことを思い出す。食料の配給は、一層之しくなっていた。

松本市立中学校の校長、田中長男は、その日も朝礼の訓示で、予科練や幹部候補生などの学校に行く上級生の名前を読み上げていた。学徒動員であった。教練という学課の時間になると、膝から下にカーキ色のゲートルを着用し、木製の銃を肩に担いで、「一つ、軍人は忠節を尽くすを本分とすべし。

「一つ……」と呼称し、四列縦隊で市内を行進する。

中学三年生のとき、私たちは工場で働くことになった。勤労動員である。天井をクレーンが騒音を立てて往来していた。

ある日、小型のトラックで、工場の物品を山の中に運搬したことがある。荷台に積んであった薬品の中に、「神薬」という名の小瓶があった。それは、強壮剤だったかも知れない。

茶褐色の粘稠な甘い液体で、何人かがそれをこっそり飲んだらしく、発覚した。若宮中尉は、クラス的全員を集めさせ、長い軍刀をチャラチャラさせながら一喝した。「お前らは、上官の命令を何と心得るか！」と。

工場での毎日はいやでたまらず、一体いつまで続くのであろうかと思った。この戦争は負けると級友が言った。そして八月十五日、それは真実となった。この日、正午、直立してラジオに耳を傾ける。天皇は、特長のあるイントネーションの声で語りかけていた。

放送が終わると、甘いチョコレートのような菓子が一枚配られた。このようなものが、どこにあったのだらう。暑い日であった。

帰りは、いつも南松本という駅に行った。陽炎の立ちのぼるレールの上に、小さな汽車が現われ、ゆっくりと上下左右にゆれながら近づいてきた。もうここに来ることはない。太平洋戦争は終わったのだ。

そして、学校での新しい日が始まる。本屋で参考書を購入する。赤尾好夫の英語の辞典の序文には、次のような文章があった。

「永劫の焔を燃え立たせる油は、君が全身全霊をあげて努力するその汗の中に見得られよう」又、

Where there is a will, there is a way.

を記憶している。

映画「そよかぜ」を見る。戦後第一作のこの日本映画は、「赤いんご」に唇よせて、だまってみている。青い空、リンゴはなんにもいわないけれど、リンゴの気持ちはよくわかる。リンゴ可愛いや、可愛いやリンゴ……」という明るい歌声によって、この国に平和が訪れたことを知らせていた。

そして、「青い山脈」の歌や映画と共に、私の青春時代が始まるうとしていた。

エピソード

ドイツの詩人シラーは、一七九六年、思想詩と呼ばれる作品の中で、次のように述べている。

「時の歩みには三様の相がある。未来はゆるやかな足取りで近づき、現在は矢の如く飛び去り、過去は永遠に沈黙して立っている……」。



燕岳の近くの燕山荘から望む北アルプスの連山

あわただしく変化する現在の時をしばし離れて、過ぎ去りし日のことを追懐の念をもって書いてみたいと思う。

信州・松本駅

父母に お母さん 別れを告げし 汽車の窓

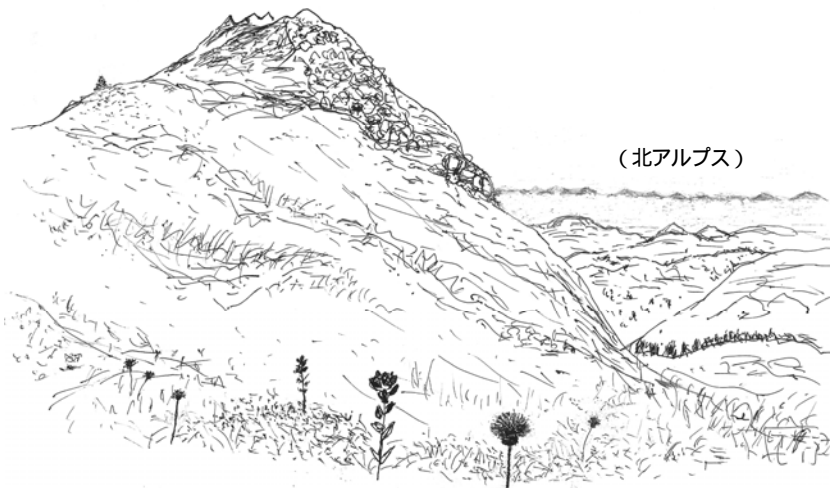
信濃の山は 遠く去り行く

昭和三十年四月、私は国立東京第一病院（現在は国立国際医療センター）でインターンをするため、故郷を後にした。

病院長の坂口康蔵先生は「諸君に望む」と題して、次のように述べたことを記憶している。

「私は、従来、患者に対する心がけとして、患者が自分の親兄弟、又は、妻子であった場合、如何なる診療や取扱いを受けたら満足であるかという事を常に念頭に置いて患者に接するようにと、若い人々にも話し、自分でもこれを実行するよう努めているが、その時代の医学で最善と一般に信じられている事はやってももらいたいが、やらずにすむ事、これはなるべくやってもらいたくない。このことは、単に私のみでなく、凡ての人に共通な希望だと思つ……。」

きびしい実地修練であったが、新しい友人たちとの楽しい二百八十日であった。記憶の糸をたどって行くと、医学部の



(北アルプス)

ノアザミやオヤマリンドウやアキノキリンソウなど、色とりどりの花を前景に入れて、いつか一枚の絵を描こうと思う

学生時代が到来する。記念アルバムの中で、恩師が語りかける

「自道精進」「Step by step」「Plizの如く、如何なる環境にでも適応出来るよきな vitale kraft を持つていこ!!」

又、同級生の言葉が所狭しと記されていた。

「平凡、雑誌の名にあらず」

「考える人間の最も美しい幸福は、究め得るものを究めつくし、究められないものを静かにあがめることだ(ゲーテ)」。

更に遡さかのぼって行くと、昭和二十三年、高校は、新制高校第一回であった。担任の国語の先生から送られた葉書には、歌が書かれていた。

あかあかと 途ふみ出でて はるかなり

安田修一 行き止まずやれ

多くの恩師と友人たちの言葉が、頭の中を駆けめぐる。時は流れ、かつて、そこで過ごした家はない。私の故郷は、松本市の郊外で、家の前の小径にそって小川が流れていた。あたり一面に田畑が広がり、遠く北アルプスの山々が美しくかった。

小川には、鯉やどじょうが泳ぎ、大きな笹おんを持ち出しては川の中を歩きまわったものである。少し離れたところに奈良

井川という川があり、泳いだり、ハヤを釣りに行った。夏になると、蛍の光が点滅し、夜空の星は限りなく美しく煌めいていた。又、秋には、稲子を取ったり、栗や胡桃を拾って歩いた。

幼友達と庭でビート玉やメンコで遊んでいると、家の中から双葉山や羽黒山、名寄岩などの相撲の実況を伝えるアナウンサーの音が聞こえてきた。村の祭りに行って、アセチレンガスのにおいがする夜店で綿アメを食べたり、舞台の余興や仕掛け花火を見た。

新年には、弟や妹と加留多や双六などで遊んだ。模型飛行機を組み立て飛ばして楽しんだこともある。家には蓄音機があり、右側のハンドルをまわし、針を入れてはレコードを聴いた。父と山や高原に行った日のことを鮮明に記憶している。断片的な古い記憶の中で最も古い記憶は、もしかしたら、母の歌った子守唄「ねんねんころりよ おころりよ……」であるかも知れない。

私は、いま一般病院の内科で診療に従事している。休日には、演奏会に行つて聴いたピアノやヴァイオリンの巨匠たちの音楽に耳を傾け、楽しんでゐる。いろいろのことがあつたが、人生において重要なこと、それは、夢をもって努力すること、人と人とのつながりが如何に大切であるかを知ること、そして、人間の力の限界について考えることであると思つて

いる。

夏休みに、上信越高原国立公園にある山田峠に行った。山道に近く聳え立つ丘のはるか彼方に、北アルプスの連山をみた。

ノアザミやオヤマリンドウやアキノキリンソウなど、色とりどりの花を前景に入れて、一枚の絵を描こうと思つている。



(カットと写真も筆者)

いのちありて

沼 口 満津男

「大丈夫ですか」という声で目をひらく。私は救急車の担架の上に寝かされていた。一瞬、どつしてこのようなところに寝かされているのか分からなかった。救急車のピーポ、ピーポという音が耳のそばで鳴っていた。私には自動車にとばされたという意識が全くなかった。

今年定年退職になったM氏の送別会の帰り道での出来事であった。道路の真ん中で自動車にはねられ、小雨の降る道路に横たわっていた。さしていた蝙蝠傘はみる影もなく、ぐしゃぐしゃになり、かけていた眼鏡はとばされていたという。「どこか痛むところはありますか。頭は痛いですか」と、救急隊員がたずねる。痛みは全然感じなかった。豊島区の白病院に行くというので、医師会の会員である田中脳外科病院に運んでくれるようお願いする。救急車の中に沢田君がなぜ乗車しているのか分からなかった。

深夜の練馬を救急車がピーポ、ピーポと鳴らしながら走っ

ているのをおぼろげに覚えている。やがて病院に着いたが、どのような検査が行われたのか私は全然覚えていない。私の頭を撮影したCTの写真を医師が見せて、異常所見がないので帰宅してもよいといわれたことを覚えている。

救急車のあとを追いかけて来た長男の俊介の自動車で練馬警察署の交通課に行く。加害者の運転手は二十四歳の青年であった。たいした傷ではないということで安心した様子であった。

沢田君とともに警察署で事情聴取されたとき、四メートル幅の道路は横断歩道がないので、二十メートル先の横断歩道を渡らなかつたのは君たちの不注意であって歩行者にも罪があるという。どうも腑に落ちない。少し酒を飲んでいたので自動車の確認を怠つたのは我々の不注意ではあるが……。

しかし、自動車が前方の歩行者の確認をしないで歩行者に怪我をさせても、双方に罪があるという。あまりにも杓子定規な考え方に驚き果てて警察署を出た。沢田君は軽症なので文句をいわないことにした。

翌日、あちこちの体が痛みだした。左足の股関節部より左膝関節にわたって広範な内出血と挫傷があり、また右股関節を中心に内出血と挫傷がみられた。右脚は歩行にも難渋し曲げることもできないほどの痛みであった。両方の脚の痛みは予想外にひどい。一カ月後、内出血は消えていったが、

未だに左股関節部のつづくよつな痛みは、夜間におこつてくる。

しかし、八十路を過ぎた年齢で骨折もしないで、まがりなりにも動けるのは幸運であった。これはひよつとすると寒川神社の八方除けのお守りのせいかもしれない。

一ヶ月前、私の患者で元警察署長が、私の医院に来る途中、自動車にはねられ前頭部内出血をおこし、未だに入院加療中である。そのことを考えると、私の場合、神のお加護と私の持っている運で骨折もせずに軽く経過しているのが不思議なくらいである。

しかし、その後、道路で自動車が接近すると、理由もなくある恐れを感じ家かげに身を寄せるような心境になる。更に私の人生観が、この事件を境にしてしらすしらすのうちに変化していくのを感じる。

死はいつでも私の近くにある。死はなんの前触れもなく近づいてくる。生と死は人生の表裏である。

生は二つの永遠の間の一瞬なり カーライル

八十歳を過ぎた私にとって、これからの一瞬一瞬は大切な時間である。永遠の未来と永遠の過去との間の限られた時間の重大さを知れば知るほど、私は一瞬の老後の生を楽しみ、この世に生きておられることを、神に感謝しなければいけな

い。

君が代寺・妙香寺

横浜に「君が代寺」があると聞いて、四月のなかば、山手駅付近の寺をたずねた。

駅前のタクシーの運転手に君が代寺といつても分からなかった。「妙香寺」ところ覚えの名まえをいうと、運転手はその寺に私を案内してくれた。

横浜の山手地区は、坂の多い、丘のある町である。狭い道を通り抜けると、丘の上に山門が見える。寺の入り口の道の傍らに、「君が代発祥の地」と書かれた石碑があった。

坂道を上りつめると、広い寺の境内に出る。法事でもあるのか、たくさん自動車が駐車していた。境内のまわりには、大きな桜の木が何本も植えられていた。春の名残の八重桜の花弁が、海からの風に吹きつけられて、ちらほらと散つてくる浮世はなれした静かな寺である。

庫裡の前の植えこみのなかに二つの碑が建っていた。一つは「君が代発祥の地」と赤く書かれた碑があり、一つは、長方形の銅版に軍楽隊の人々が刻みこまれ、石碑に「日本吹奏楽発祥の地」と書かれていた。

妙香寺は、弘法大師が西暦八一四年（弘仁二年）に創立し

た。その後、この寺は日蓮宗に改宗し妙香寺と名づけられた。寺の敷地は百二十五町の広大なもので、立派なコンクリート建ての本堂・庫裡・書院・七つの堂の外に山門のそばに鐘樓がある。寺の裏手は小高い丘になっていて、たくさん墓が立ち並んでいる。

この寺が、「君が代」とゆかりをもつようになったのは明治二年ごろである。禁裏警衛のため徴兵された薩摩藩の軍樂生三十名が、妙香寺に寄宿したのがはじまりであった。当時、この軍樂隊は、英国公使館の軍樂隊長フエントンに軍樂の伝習を連日この寺で受けていた。

ある日、フエントンが伝習生に国歌の必要性を説いたのがきっかけとなり、砲兵隊長大山巖（後の大山元帥）が中心となり、古今集より歌詞を選定し、作曲をフエントンに依頼した。明治三年九月、御前演奏したのが第一の「君が代」であった。

しかし、この曲は讚美歌調で歌いにくいいため、明治九年の天長節に廃止になった。

その後、明治十三年、宮中雅楽部でいくつかの曲が作られた。雅楽部長中村氏・陸海軍軍樂隊長・伶人林氏・独人エツケルト氏など四人が審査委員となり、林氏の長男広季と奥好義と合作の曲が選ばれた。現代の雅楽風の日本的な曲である。これが第二の「君が代」で、現在歌われているのは第二の「君

が代」である。

明治十三年、第二の「君が代」の旋律が悪いというので、文部省独自の立場から国歌を作成するよう文部省取調係に下命された。三月後に、四編十一首に改めた「音楽取調係議案」を文部省に上申した。旋律は英国古代の大家ウエーバの古歌より選んだ。しかし、この第三の「君が代」は歌詞の流れと曲の進行が不一致のため、国歌としての気品が全くなかった。これが第三の「君が代」である。

「君が代」の歌詞は古今和歌集卷七の賀部にある読み人知らずの歌である。「我が君は千代に八千代にさざれ石の巖となりて苔の産すまで」

この歌は、むかしから神前や仏会で歌われ、鎌倉時代に「君が代」が「君の世」となり、室町時代に「君が代」に定着し、明治まで伝えられてきた。

第一次大戦後、「君が代」の歌詞は、封建的で君主制の名残があり、民主的でないといわれた。そのうえ、戦争中の軍人専制の印象がつよく、一部の人が国歌にふさわしくないとい非難された。

たしかに、戦争中、日の丸の旗と「君が代」が戦意高揚のため使用されたことは事実である。一部の人が軍部ばかりでなく、国歌への不信感を抱くのももっともなことと思つた。

戦後の日本は、自由主義国家であるから、イデオロギーの

違いによりいろいろの意見を述べることは自由である。共産国のように、これらの考え方を画一化する必要もない。

しかし、日本で生まれ、日本で育ち、日本に住んでいる日本人であることを自覚すれば、国旗をかがげ、「君が代」を歌うことはあたりまえのことである。

昭和五十一年、小中学校学習指導要領改訂の際、「君が代」は正式の国歌と明記された。それにも拘らず、「君が代」を歌わず、国旗をかがげないことをしない一部の小中学校のあることは、日本人として不思議な思いがする。

どこの国の人でも、自分の国を誇りに思わない人はいないであろう。外国のオリンピック会場で、日の丸の旗がするとあがり、「君が代」の曲が会場に流れるとき、胸にこみあげてくる感動を私は忘れることができない。

「君が代廃止論の宗旨のほとんどが歴史的視野からの展望を欠き、単なる感情論に終始して、君が代の（君）についての戦争責任だけを問題視する議論が目立っている。……」と、「三つの君が代」のあとがきに書いている著者内藤孝敏氏の考えに、日本人として、私は、ふかい共感を覚える。

表紙の作者紹介 有馬清徳先生は早くから、写真家として一科展などに入選。現在は日本写真作家協会名誉会員。日本光画会審査員として活躍です。

表紙の言葉

「尾根 錦 繡」 有馬 清 徳 (西宮市)

奈良県上北山村、国道 169 号線を南下し、大台ヶ原登山道入口を通り過ぎ長いトンネルを抜け約 30 分、国道 309 号線の標識に従い右折、行者還トンネル方向に入る。四駆車なら充分登れる山道を 40 分、少しキツイ勾配の左カーブを登りきったところが写真の撮影ポイントです。

標高 700 米、道の対面に見える深い杉林の尾根の数々に、見事な紅葉の帯が描かれます。もともとは、山林所有者の持分境界あったとのこと。この撮影には、紅葉のタイミング、撮影時間帯、光線状態などを知るためロケハンが必要であとは如何に切り撮るかが鍵になる場面です。

二羽のカラスの対話



藤 倉 一 郎

(1)

A 人間はほかの動物が人間の知らない感覚を持っていることを知らないものだから、自分たちの科学が絶対的なもので、人間を幸せにすると勘違いしていますが、それは単なる無知です。

B 超音波なども最近になって、やっと気づいて科学の応用だなどと得意になっていますが、あんなものはもともとありふれた自然現象で日常生活に使っているものです。それなのに自分たちの無知を恥とも思わず、得意になっているのは

気の毒なことです。

A わたしたちカラスにしてみると人間をふくめてあらゆる動物の寿命判定などというのは、自然と生まれながらに身につけているのですが、人間はそれがわからない。そこで人間は科学をもちだして、科学的に説明しようとする。しかしこの科学的説明が怪しげで、世界の真理を解き明かすには、あまりにレベルが低いですね。

B 医者でさえあと何時間で生命が終わるかもわかんないんです。あきれたことです。私たちは後なん年寿命があるかなんていうことは、1キ口先からでもわかるというのに、驚きです。

A つまり人間は未開発種族だからいろんな面で開発を進めなければならぬために、科学という道具をつかって、懸命に進歩を目指しているんですよ。

B しかし発展形態からみても結局はアリ社会かハチ社会程度の女王指導型君主国家になって、終焉を迎えることになるでしょう。民主主義とか自由主義とか人間が平等で幸福そうにみえますが、互いに闘争だけがむき出しになって、いたわりが足りないせいか、ギスギスしていかがみ合っているような生活です。

A 人間の国家をどのような形態で維持していくかは、これからの政治の問題ですが、現在のままでは、もう限界です。

強国が弱国を搾取する植民地主義と現在の民主主義はあまり変わりばえしません。もつと平和でのどかな政治を案出しなれば、人間社会は早晩終わりでしよう。

B 政治学の研究ですね。科学と経済だけを重視した人間本位の政治でなしに地球上のすべての動物も植物も等しく平和で健康であるために、現代の人間社会に方向転換が迫られているのです。

(2)

A 人間の妊娠や出産、つまり生殖医療がずいぶん変わっているようですね

B 人間が爆発的な人口増加で危機を感じている中で、子供のない夫婦は必死になって、子供を持ちたがるんです。

A 執拗に子供を欲しがるといいますから、医学もそれにこたえよつとするんですね。

B 男女産み分け、不妊治療、体外受精、最近では体外受精した受精卵を赤の他人に委託して成長させたりしています。これを依頼した夫婦が離婚してしまって、生まれた子供が行き場がないというようなこともあります。こんなことでは困るといっているので、六十歳を過ぎた夫婦の母親がいろいろな手を尽くして、妊婦をつとめ、代理出産を無事すませたと

いう話も報告されています。

A 六十歳を過ぎたような老人に出産させるなどとは、とんでもないことです。危険が充満してますよ。それをよっぽどいいことをしたと言いつらす医者もあきれたものです。

B 生んだ子供が母親や父親を殺しかねないような世の中なのに、こんなにしてまで子供が欲しいいんでしょうか。

A 自然のままに生きるといことが人間にとって、いかに大切であるかということが、わかっていません。

B 子供に過剰な期待を寄せるといことは、人間の不幸につながります。

A 自然の経過で、妊娠も出産もするのなら結構なことですが、作爲的にコントロールするのは、人間の将来にとって不幸を招きます。

B 人間はあまりに自然に対しても、人間自身に対しても余計な手をいれすぎています。これは十分反省しなければなりません。

A 夕焼け空を眺めて、こうして二羽で語り合っている自然の美しさが、人間にはわからないのでしょうか。

B 気の毒なことです。

(3)

A 人間のやっていることがどうもよくわかりませんね。誰でもいいから殺せばいいとは、どういふことなんでしょうね。われわれの世界ではとも考えられないことです。もっとも、戦争などというものは仕事として殺人をしているわけですから人間本来の本能なんじゃないでしょうか？

B いやそんなことはないでしょう。人間だって平和にのどかに暮らしている人だつてたくさんいることを考えると、彼らは人口増加と機械文明の過剰発達のために精神構造の支障をきたしてしまったのではないかと思えますよ。子供を育てさせやかな平和を守るといふなりわいにつまづいて、精神異常をきたしてしまつたのではないのでしょうか。

A 誰でもかまわず殺傷したり、母親を殺したり、父親を殺したりするといふこと自体、正常の精神状態ではできないことです。これを繰り返して報道したり、新聞や雑誌が書き立てるものですから、連鎖反応で同じような事件が次々とおこっているのではないのでしょうか。

B つまり文明が人間のこころを蝕んでいるといふことでしょうか？

A そうだとおもいますよ。機械文明が進み、政治も経済も教育も医学もすすめばすすむほど、人間のこころが劣化していくのです。寿命がのびればのびただけ、こころが貧しくなつて人間は地上最悪の動物になつていくのです。

B 認知症もふえていますよ。あれは痴呆で、廃人ですからね。人間の寿命がのびれば、それに比例して増加しているようです。

A 本来人間は楽観的な動物ですから、地球をわがもの顔にいじりまわして、それが人間の自然の征服だなどと考えていますが、とんでもないことです。人間はもっと謙虚になつて、自然の偉大さを認識し、人間は蟻や蛙と変わることはない、ありふれた生き物であることを認識しなければならぬのです。

B いたずらに機械文明をおすすめて、科学という化け物にとりつかれているものだから、脳の思考中枢が破綻してしまつたのでしょうか。

A 文明というところのない怪物におどらされて、人類は発狂し知的障害をおこしてしまつたのです。コンピュータの仮想世界と現実が混乱してしまつて、人口爆発とあふれた廃棄物にまみれて、人類破滅の終局を迎えようとしているのです。このまま進めばあと五十年くらいで人類は破滅することになるでしょう。

B 人類が破滅しても、崩壊した地球の修復はたいへんです。人類の後始末はわれわれカラスが担いますか。

